

FRONTEO の人工知能 KIBIT、大和住銀投信投資顧問の 資産運用能力向上の取り組みに採用

ファンドマネージャーの暗黙知に基づいて、企業情報を分析、判断の支援に効果

米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がける株式会社FRONTEO（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本正宏、旧UBIC）は、独自に開発した人工知能エンジン「KIBIT（キビット）」が大和住銀投信投資顧問株式会社（代表取締役社長：後藤正明）での採用が決定したことを発表しました。

大和住銀投信投資顧問では、取り組みの第一弾として、2017年7月より、追加型投信「日本成長テーマフォーカス（愛称：グランシェフ）」の運用プロセスにおいて、KIBITの活用を開始いたします。

大和住銀投信投資顧問とFRONTEOは、ファンドマネージャーの投資銘柄選定における暗黙知をKIBITが学習できるかどうかについて、2017年1月よりPoC（概念検証）を行ってきました。両社は、KIBITがベテランのファンドマネージャーの知見を学んだうえで解析を行い、運用プロセスにおいて効果的な支援ができるかを検証しました。

PoCを通じて、人間では時間を要する大量の企業情報の分析を行うにあたり、KIBITによる解析が、投資銘柄選定の効率化に寄与することが確認できました。この結果を受けて、大和住銀投信投資顧問では、KIBITを搭載したデータ解析プラットフォームを採用し、運用プロセスの企業情報等の分析深化を進めることで、更なる運用能力の向上を目指すことになったものです。

FRONTEOは、稼働後もKIBITによる解析を支援し、従来になかった判断における付加価値を提供することで、大和住銀投信投資顧問が目指す、「お客様の資産形成に役立つ最良の運用サービスの提供」を支援して参ります。

■KIBITについて

人工知能「KIBIT」は人工知能関連技術のLandscapingと行動情報科学を組み合わせ、FRONTEOが独自開発した日本発の人工知能エンジンで、人間の心の「機微」（KIBI）と、情報量の単位である「ビット」（BIT）を組み合わせ、「人間の機微を理解する人工知能」を意味しています。テキストから文章の意味を読み取り、人の暗黙知や感覚を学ぶことで、人に代わって、判断や情報の選び方を再現することができます。

【FRONTEO について】 URL: <http://www.fronteo.com/>

株式会社 FRONTEO は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年 8 月に設立。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Liti View（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。同事業で培われ、発展した独自の人工知能関連技術は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現。最近ではヘルスケアやビジネス・インテリジェンス、マーケティングなどの領域に活用し、事業の拡大を進めています。2007 年 6 月 26 日東証マザーズ、2013 年 5 月 16 日 NASDAQ 上場。資本金 2,481,621 千円（2017 年 3 月 31 日現在）。2016 年 7 月 1 日付けで株式会社 UBIC から現社名に変更しております。

〈本件に関するお問合せ先〉

株式会社 FRONTEO 広報担当 池内、河本

TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345 Email: pr_contact@fronteo.com